

国立子ども青少年図書館の主要業務： 現在と未来

国立子ども青少年図書館 企画協力課 チャ ギョンネ

1. はじめに

韓国では、21 世紀の知識情報社会に備え、子どもや青少年の理解力と創造力を高めるために情報活用能力を向上させなければならないという認識とともに、子どもや青少年の読書の重要性に対する社会的な共通認識が形成された。また、ある放送局の子ども図書館設立キャンペーンの社会的反響を拡大するにしたい、子ども図書館に対する社会的関心が高まり、国や地方自治団体も図書館の子どもサービスに関心を持つようになり、公共図書館の子ども資料室のリフォーム、拡張及び子ども専用図書館の設立が急増した。

このような社会的な雰囲気醸成にともない、子ども図書館が量的に膨張し、あわせてサービスの質的向上と図書館運営の専門化といった子どもサービスの充実が切実に要求されるなど、子ども図書館サービスに多くの変化が生じた。

これに対し、子ども・青少年図書館についての多様な政策やサービス運営モデルの開発・普及、子どもや青少年の読書生活習慣化運動の中心組織として、全国の子ども図書館の先導的役割を果たす国家代表子ども図書館の設立に対する必要性が提起され、2 年余りの間、国内外の子ども図書館の現地訪問調査と、図書館関係者及び専門家の意見集約などの設立準備を経て、2006 年 6 月 28 日に、国立子ども青少年図書館がようやく開館した。

開館以後、国立子ども青少年図書館は、韓国の子どもの青少年図書館サービスを発展させ、子どもサービスの領域を拡大するため、様々な方面で活躍してきたが、その役割と主要活動状況について、この場を借りて紹介しようと思う。

2. ビジョンと役割

国立子ども青少年図書館は、「子どもや青少年の未来をひらく図書館」をビジョンに掲げ、以下の主要な役割を担っている。

- (1) 子ども・青少年図書館サービス発展の基盤づくり
- (2) 読書振興プログラムの開発及び普及
- (3) 子ども司書の専門性強化

- (4) 国内外の交流・協力の活性化
- (5) 子ども資料の研究図書館
- (6) 子ども図書館の運営及びサービスモデルの提供

上記の役割を果たすため、国立子ども青少年図書館で推進している事業について、次章で詳しく説明する。

3. 主要推進事業

(1) 子ども・青少年図書館サービス発展の基盤づくり

①図書館及び文献情報学会の学術発表会開催支援

子ども青少年サービスの主要事案について、該当分野の実務者と学会の専門家が問題点を共有し、対案を提示できる学問的基盤づくりのため、学会の学術活動等を支援している。

②図書館及び読書関連団体の活動支援

子どもや青少年の読書環境づくりに寄与できるよう、全国各地域の子ども図書館及び民間読書団体の読書振興行事を支援している。

③学術研究の遂行

子ども・青少年図書館サービスの学問的バックグラウンドと理論的根拠を用意するための学術研究を行っている。これまでに完了した研究実績は、以下のとおりである。

- 『子ども司書の専門性強化のための継続研修プログラム』2006
- 『子ども・青少年読書文化の環境づくりのための基礎研究』2006
- 『公共図書館の子どもサービス評価指標の開発研究』2007
- 『図書館の子どもサービス強化のための職務分析研究』2007
- 『読書教室運営マニュアルの開発研究』2007
- 『青少年読書振興プログラム開発と運営方案に関する研究』2007
- 『公共図書館の子どもサービス向上のための協力活性化研究』2008
- 『図書館の多文化サービス開発に関する研究』2008
- 『子ども基礎蔵書の開発研究』2008
- 『子ども図書館の分類体系改善のための研究』2008
- 『子ども資料総合目録の開発方案研究』2009

(2) 読書振興プログラムの開発及び普及

①子ども読書振興プログラムの開発・普及

○図書館を利用しにくい子ども達を対象とした「図書館といっしょに本を読む」事業

図書館へのアクセスが困難な児童養護施設、山奥にある学校などの図書館を利用しにくい子ども達を対象に、読書態度や読書習慣づくりを助け、あわせて子ども達に図書館サービスを提供するために「図書館といっしょに本を読む」事業を推進した。

2007 年に試験事業として初めて実施した「図書館といっしょに本を読む」事業は、16 の公共図書館を選定し、該当地域に位置する図書館を利用しにくい子ども達が集まる場所を訪ね、児童書を支援し、子ども達の特性と状況に合った読書プログラムを運営しているが、これに必要な図書と講師費などを当館で支援している。2009 年には、運営図書館が全国で 50 図書館に増え、1,000 余名の子どもを対象に 8,900 冊余りを支援し、計 1,200 回の読書プログラムを運営した。

○全国の公共図書館の読書教室支援

子どもや青少年が幼い頃から読書の楽しさと必要性を理解し、正しい読書態度を育て、自ら楽しんで読書する習慣を身につけ、図書館での幅広い学習経験により、図書館利用を生活習慣化することを目的として、全国の公共図書館で夏・冬休みの間運営される「読書教室」を支援している。

1971 年から毎年長い休みの期間を活用し、持続的に運営されてきた「全国公共図書館読書教室」は、2007 年第 75 回の夏の読書教室から、国立子ども青少年図書館主管で実施されており、2009 年の「全国公共図書館読書教室」は、冬・夏の読書教室 2 回にわたり計 648 館で実施され、読書討論、図書館利用法、ブックアート、読後活動など、多様な読書プログラムが運営され、全国の子どもや青少年の読書に対する興味を掻き立てることに寄与した。読書教室の優秀修了者には、国立中央図書館長賞及び国立子ども青少年図書館長賞を授与し、読書教室運営に卓越した指導力を発揮した司書、教師及び専門家など優秀指導者 32 名には、文化体育観光部長官賞を表彰した。

○「本を読むあそび場」の開発・普及

演劇あそびと読書をつないだ新しい読書プログラムである「本を読むあそび場」を韓国芸術総合学校と共同で開発、全国 10 余りの公共図書館で運営し、全国的に拡大普及させるために運営マニュアルを開発、配布し、活用ワークショップを開催した。

○全国子ども・青少年読書新聞・感想文コンクール開催

子どもや青少年の読書機会拡大と、読書人口の底辺拡大を図ろうと、全国の子どもや青少年を対象に、コンクールを開催した。2007 年に初めて開催した読書感想文コンクールを全国的な規模で成功させるため、放送局と教育及び図書館関連団体の後援を受け

を進めた。本コンクールは、市等が行う他のコンクールとは違い、指定された図書を読むのではなく、当館から提示した主題に関する本を自由に選択し、読んだ後に思ったことや感じたことを読書新聞や読書感想文の形式で作成し、応募するようにした。

②青少年読書振興プログラムの開発・普及

○「1318（注:13~18歳という意味）本の虫たちの図書館占領記」開発及び普及

青少年の読書に対する興味の誘発と図書館利用の活性化のため、青少年が運営主体となる読書プログラムとして開発された。2009年には、選定された30の中・高等学校の図書館を中心に、「1318本の虫リーダーズ」を選び、各学校図書館の状況に合ったテーマ展示会、著者講演、読書クイズ、読書討論など、多様な読書プログラムを運営した。生徒のみならず教師や保護者も参加し、図書館を通じて読書の連帯感を形成して読書への興味を掻き立てた。また、オンラインコミュニティーを通じ、青少年が関心のある主題の本をお互いに推薦させ、青少年推薦図書目録を作成し、推薦目録の資料を図書館に備えて生徒達に貸し出せるよう支援した。

○青少年のための読書コラム

青少年の読書意欲の向上と読書の生活習慣化のため、「青少年のための読書コラム」ウェブサイト(www.nlcy.go.kr/column)を構築し、2006年12月23日からインターネットを通じて提供した。青少年のための読書コラムは、国内の著名人、評論家、作家、コラムニスト、司書などに、青少年を対象に読書を勧めるコラムの執筆を依頼し、ウェブサイトに掲示し、家族や親戚、友達などに、近況報告といっしょに読書コラムが載った電子メールを送ることができるよう、読書コラムの内容を反映したE-cardも運営している。年末には、コラム集とダイアリー機能を兼ねた『青少年のための読書手帳』を発刊し、国立子ども青少年図書館の読書プログラム及び各種行事に参加した青少年達に贈呈した。

③優れた読書プログラムマニュアルの開発・普及

○読書教室の運営マニュアル

全国の公共図書館の読書教室運営の充実を図るために開発し、全国の公共図書館などに普及(2007年)

○本を読むあそび場の運営マニュアル

読書と演劇あそび(クリエイティブ・ドラマ)を結合した子ども読書プログラム「本を読むあそび場」の全国的な拡大・普及のため開発(2008年)

○ストーリーテリングの運営マニュアル

子ども担当司書の基本的資質向上のために、童話口演プログラム運営時に参考にするマニュアルの発刊(2009 年)

④父母のための読書文化講座

父母の読書意識向上と、家庭での正しい読書指導を通じて、子どもの読書文化の環境づくり及び図書館文化の定着に寄与するため、父母及び関心のある一般人を対象に「父母のための読書文化講座」を運営している。

4 月から 11 月まで、1 期(10 回)、2 期(10 回)、土曜講座(4 回)に分け、計 24 回を運営しているが、講座は図書館の意味及び役割を伝えることができる図書館の話、児童書についての理解を助けるための絵本、童話、童詩などジャンル別の児童書の話、子どもとコミュニケーションをとる方法などで構成し、各分野の専門家を招聘して進めている。

(3) 子ども司書の専門性強化

2006 年 6 月開館以後、子どもサービス担当司書の専門性向上と実務能力向上のため、体系的で総合的な継続研修プログラムを開発し、運営している。研修課程は、集合研修と巡回研修、サイバー研修の 3 過程を運営中である。

①集合研修

参加者が国立子ども青少年図書館で一定期間研修を受ける形態で、2006 年に実施した委託研究『子ども司書の専門性強化のための継続研修プログラム』を反映させて開発した「子ども担当司書基礎過程」、「児童書についての理解」など 9 つの過程を運営しており、毎年 3 月から 11 月まで、全国の公共図書館の子ども担当司書及び子ども図書館司書 310 余名が履修している。

2008 「子ども担当司書継続研修」 集合課程 日程及び研修人員

(単位：日/名)

課程名	期間	日数	研修人員			
			計画	実績		
				合計	公務員	民間
子ども担当司書基礎分野Ⅰ・Ⅱ	4. 23. ~ 27.	5	40	54	37	17
児童書についての理解	5. 7. ~ 11.	5	40	35	26	9
子ども読書相談	5. 21. ~ 23.	3	40	43	29	14
子どもとのコミュニケーション	6. 11. ~ 15.	5	40	38	28	10
本をいっしょに読む	7. 9. ~ 13.	5	40	28	17	11
子どもプログラムの企画	9. 3. ~ 7.	5	40	49	38	11
児童書の書評	11. 12. ~ 16.	5	40	32	26	6
絵本を深く理解する	10. 22. ~ 24.	3	40	35	26	9

②巡回研修

全国を 10 の地域に区分し、該当地域の子ども担当司書を直接訪ねて研修を実施するもので、ソウルに来るのが難しい地方図書館の司書の便宜を図るため用意された研修形態である。地方の公共図書館を巡回し、各地域別に 2 日間、地域の公共図書館の子ども担当司書を対象に「本を読むあそび場運営ワークショップ」、「読書教室運営ワークショップ」を開催した。

③サイバー研修

当館では、時・空間の制約で集合研修への参加が難しい子ども担当司書のため、イン

ターネットを基盤とした研修運営を通じて研修機会を拡大し、学習者と講師間、または学習者間の相互作用を通じた自己主導的な学習の雰囲気をつくろうと、2007 年からサイバー研修を開発し、運営している。2008 年には「児童文学の理解」、2009 年には子ども図書館で最も多く運営している童話口演運営の手助けにするため、本の読み聞かせの基礎、童話口演、読後活動を主内容とする「本をいっしょに読む」課程を開発した。

(4) 国内外の交流・協力の活性化

①全国子どもサービス協議会の運営

国立子ども青少年図書館と公共図書館、学校図書館間の相互連携及び協力を通じ、国内の子ども・青少年図書館の発展を図る目的で 2006 年 12 月に発足した司書協議体で、2009 年現在 174 館、388 名が加入している。会員として加入した司書は、子ども資料分科、読書プログラム分科など、関心のある分科に加入して活動しており、オンラインコミュニティを通じて研究活動及び情報共有を行っている。

②国際シンポジウムの開催

外国の図書館の優れた事例と文献情報学の最新理論を国内に紹介し、国内の子ども・青少年図書館サービスをさらに進んだものにするため、外国の図書館司書及び専門家らが参加する国際シンポジウムを毎年開催している。

(5) 子ども資料研究図書館としての機能の遂行

①国内外の児童資料の所蔵及び研究支援

国内外で発刊された児童資料と、各国の主要関連資料を収集し、児童文学作家及び児童資料研究者にオン・オフラインで提供しており、歴史的史料として価値が高い韓国の児童文学作家 3 人の資料の寄贈を受け、児童文学研究を支援している。

②ウェブジン<子ども青少年研究 e-partner>サービス

2007 年 11 月 1 日に創刊し、月刊で発行しているウェブジン『子ども青少年研究 e-partner』は、子ども、青少年、読書、図書館、児童文学などに関連した情報を、子どもや青少年に関連のある研究者及び関連サービス担当者の研究活動支援のために提供する電子ニュースレターである。各種関連情報は、テーマ&レビュー、本・論文、逐次刊行物目次情報、研究に関する情報、情報ガイドなどのメニューで再構成し、Eメール送信及びホームページ(<http://www.nlcy.go.kr/section/web/web.asp>)掲載を通じて配布している。

③研究フォーラム及びセミナー開催

児童文学及び子ども・青少年サービス関連の各種の優れた事例の共有とプログラム開発など、多様な図書館サービスの提供方案について討論の場を設けようと、関連のある専門家及び図書館関係者などを招聘し、研究フォーラム、セミナーなどを開催している。

(6) 子ども図書館のモデルとしての役割の遂行

①資料室の運営及び図書館サービスモデルの提示

子ども・青少年サービスのための資料室運営現況及び子どもや青少年の目線に合わせた各種図書館サービスプログラムの開発・運営事例をホームページで紹介し、国内の公共図書館において参照できるように提示している。

②顧客満足度調査

毎年年末に、図書館訪問者500余名を対象に利用満足度を調査し、図書館サービス改善に反映している。

(7) 図書館広報

①資料の発行

子ども・青少年図書館についての広報誌『図書館のはなし』を月間で発行しており、司書のための児童書の評論誌『本のはなし』と、国立子ども青少年図書館の活動状況を整理した年次報告書を年刊で発行している。

②展示会の開催

子どもや青少年に関連した学術・文化活動を支援し、図書館を複合文化空間として活性化させるため、多様なテーマの図書展示会を開催しており、外国公館及び文化院と共同で企画展示も開催している。

③国際図書展への参加

2007年から続けてボローニャ児童図書展に参加し、韓国の児童書の優秀性及び子ども図書館の発展を広報している。

4. おわりに

子ども図書館運動を契機として、子ども図書館の必要性に対する社会的な共通認識が形成され、子ども・青少年のための図書館サービスに対する関心が高まり、韓国図書館界長年の宿願であった国立子ども青少年図書館が、各界各層の関心が集まるなか、2006

年ようやく開館した。

開館以後、国立子ども青少年図書館は、子ども司書の専門性向上のための継続研修プログラムの開発及び運営、子どもや青少年の読書振興のための多様なプログラムの開発と普及、国内の児童文学発展のための研究図書館機能の遂行など、子ども・青少年図書館サービスの発展のための基盤を、さらに強固につくりあげていこうと努力してきており、国内の図書館界から肯定的な評価を受けている。

今後も、国立子ども青少年図書館は、1)子ども青少年サービスの発展基盤強化、2)読書振興プログラムの開発・普及、3)戦略的蔵書開発、4)情報サービスの高品質化などを目標に、韓国の子どもの青少年図書館界の発展を先導し支援する、国家代表子ども・青少年図書館としての責任と使命を果たすために努力していく所存である。